ストレス，酸分泌過多，潰瘍疾患

Stressful Life Events, Acid Hypersecretion, and Ulcer Disease: *MN Peters, CT Richardson* (Gastroenterology 84: 114～119, 1983)

多くの潰瘍患者および医師は，潰瘍の症状増悪はしばしばストレスの大きい事件中あるいはその直後に起こると信じている．その根拠として，第1にある潰瘍患者たちは，いろいろなストレスを経験するか，あるいは非潰瘍患者に比べてストレスに対する感受性が強い．第2に，ストレス事件は，しばしば潰瘍症状の発症に先き立って起こっている．第3に激しい情緒的ストレスは，ある患者たちで潰瘍発生に導くことなどが挙げられる．

環境上のストレスが潰瘍疾患の原因となるメカニズムは明らかでない．敵意，戦争行為，遺恨，犯罪，欲求不満などは酸分泌，蠕動，血流などの亢進を伴う．また，心配が胃酸分泌を高め，潰瘍発生に導くことも示されてきた．著者らは潰瘍が激しい情緒的ストレスと著明な酸分泌亢進に関連した2例を経験した．1例は最近6人の家族を失い，自分も死の恐怖に陥った．第2例は盗みの疑いで告訴され，取調べ中に職を失った．2例とも著明な酸分泌亢進を示し，入院後に正常に戻った．第1例は入院後生命の危険な病にかかっていないことがわかり，第2例は無実が判明し釈放され，潰瘍症状は酸分泌の低下と同時に消失した．多くの胃潰瘍では，基礎酸分泌と最高酸分泌が正常か低いが，この2人では基礎分泌が高いので，なぜ十二指腸潰瘍でなく胃潰瘍が起こったかが疑問だが，十二指腸液の胃への逆流，胃粘膜の質的量的な変化，重炭酸塩の分泌低下，あるいは胃粘膜血流の変化が情緒的ストレスに関係したかもしれない．Davies らは205名の胃潰瘍，十二指腸潰瘍患者の84%と，54人の再発潰瘍の80%が，発症直前の週にストレスに遭遇していると報告し，仕事や経済上の問題や家族の病が多かった．以上のように，ストレスはある患者たちで酸分泌を亢進させ，潰瘍発生に結び付くと推測する．ストレスの緩和で酸分泌は低下し，症状が緩和されることは，この推測を支持する．

（愛知県がんセンター第1内科
小林世美　抄）

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2012

2026/09/17 09:39:00